

いちい場通信

NO. 80 December, 2020



目次

- 1 避難所運営訓練/避難所体験会
- 2 災害時外国人支援サポーター養成講座@石垣島・宮古島
- 3 リーガル・ライフサポーター養成講座
- 4 Withコロナ時代「新たな多文化共生の地域づくり」
- 5 OIHFが取り組む在住外国人支援アンケートの結果
- 7 医療通訳講座ステップアップ講座/ English and Cross-culture Seminar
- 8 OIHF Online Japanese Class 講師のご紹介
- 9 OIHF主催イベント情報
- 10 COVID-19禍におけるOIHFの様々な取り組み
- 11 国際理解・国際協力のための中学生全国作文コンテスト

公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation (OIHF)

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-2-16

TEL: 098-942-9215 FAX: 098-942-9220

HP: <https://kokusai.oihf.or.jp> FB: <https://www.facebook.com/oihf60>



新型コロナウイルス感染症対策を講じて 「避難所運営訓練/避難所体験会」を実施



去る11月7日（土）に浦添市立仲西小学校体育館において、「避難所運営訓練/避難所体験会」を実施しました。この避難訓練は島嶼県沖縄の地域防災力向上を目的に毎年行っており、子どもやお年寄りなど地域住民200名以上の方々に参加されました。特に今年は人が集まる避難所で新型コロナウイルスの感染防止対策をどう実践するかも課題の1つで、受付班担当者は、密にならないよう、ソーシャルディスタンスを保ちながら、検温の実施・問診票の記入、手指の消毒等の受け付け対応を行いました。



受付の開設



多言語情報の掲示



消防署員によるAED訓練

訓練では大規模災害時での支援拠点となる「災害時多言語支援センター」と我々が育成した「災害時外国人支援サポーター」との協力体制を取りながら、支援が行き渡らない外国人に必要な情報をどのように届けるかを確認したり、また防災関係機関との連携確認を行いました。一方、会場には災害時に役立つ知識を紹介するブースを設け、訓練と並行して、参加した地域住民らが手作りグッズや心肺蘇生のやり方などを学んでいました。訓練後に行った振り返りでは（一財）熊本市国際交流振興事業団の事務局次長 勝谷 知美氏に講評していただき、「避難所の至るところに多言語表示があったのは良かった。しかし、表示が避難者に伝わらないと意味をなさない。言語によっては文字が小さすぎたりしたので、避難者の視点にたって掲示できるとより良かった」等の助言を得ました。

一般の参加者は訓練を通して、防災への意識を高めている様子で、また、災害時外国人支援サポーターからは、「机上だけで学ぶのと実際に動いてみるのでは全然物の見え方が違って、訓練であったとしても「想定しながら」動けるのは貴重な体験だった」との感想が寄せられました。



訓練の振り返り



多言語支援センターの開設



シナリオ・状況付与班

主催者として訓練を振り返って、これまで実施してきた参加者数が最多であったことは、とても良かったことと感じています。一方、今回はいつも以上にチラシやポスターの多言語数を増やし、また地域の外国人コミュニティにもキーパーソンを通して広く訓練や体験会への参加を呼びかけたにも関わらず、災害時外国人支援サポーターを除く一般参加者の中に外国人が全くなかったことが課題でした。もしかしたら、「避難所がどのような場所なのか」「避難所に行くときどないことがあるのか」「外国人が避難所についてもいいのか」などそのあたりの浸透がまだまだなのかなと感じているところです。今後はいろいろな講座や日本語教室等を通して、特に外国人の避難者行動に結びつくよう、イベントの啓発を図っていきたく考えています。

もう一つは、多言語支援センターの運営方法についてです。事前の打ち合わせでは全員の協力（話し合い）で行うことを確認していたのですが、いざ訓練がはじまり、いろいろなシナリオへの対応を迫られいっぱいになると、確認作業を怠り外部に発信してしまうことが散見されたり、情報を共有するためのログの入力作業が追いつかず、対応のトリアージがうまくできなかったことなどが挙げられます。

訓練にご協力・ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



災害時外国人支援サポーター養成講座@石垣島・宮古島

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で、10月2日（金）から4日（日）に石垣市で、また12月4日（金）から6日（日）に宮古島市で「災害時外国人支援サポーター養成講座」を実施しました。

講座では国際交流課職員が講師となり、「沖縄県内における在住外国人の状況」を概観し、「災害時とコロナ禍に共通して直面する外国人の困難」について考えたり、また「やさしい日本語」や「避難所運営ゲーム机上訓練」等の参加者主体型となる演習を行いました。

石垣で実施した参加者からは、「実際に過去にあった事例などを基に演習などをやり、分かりやすかった。自分自身の防災に対する意識も変わり、3日間で学んだ事を家や職場でも活かしていきたい。」「災害が起きた際、自分なりにどうすればいいかこの3日間での講座で受けた事を心に留めながら行動できたらと思った。」「内容は短縮されるとのことでしたので、もっと知りたいので残念な一方で、3日間では仕事の都合上受けられない方も多く、離島ならではの難しさを感じた。講座はどれも興味深く、もっと時間をかけて受けてみたかった。」などの感想が寄せられました。

また、宮古島市で受講した参加者からは「外国人支援だけでなく、自助・共助力の向上にも繋がる講座だったと思う。今後も島内でサポーターが増えていけば地域防災力の向上に繋がると思う」や「外国人サポートは特別なものではなく、他者を思いやる通常感覚を研ぎ澄ますことが必要で、それは語学よりよっぽど大事なことであると感じた。いずれ起こるかもしれない災害に備えて、できるだけ多くの方が本講座を受講するべきだ」とのフィードバックをいただきました。

今回の講座を通して沖縄県内での登録者が214名となりました。OIHFでは引き続き、本講座を定期的実施していくことで、島嶼県沖縄の地域防災力向上に努めていきたいと思っております。

**10月2・3・4日
石垣市**



**12月4・5・6日
宮古島市**



リーガル・ライフサポーター養成講座



外国人との多文化共生社会に向けた環境整備の一助として実施している「法律・生活相談」について、外国人から寄せられる相談は、在留資格・労働問題・相続など多岐にわたります。

そこでOIHFと相談者、また弁護士等相談に応じる内容を専門的な「通訳者」として相談者支援対応することができる「リーガル・ライフサポーター」を育成し、OIHFの相談窓口機能の向上を図るための講座を12月7日（月）に沖縄産業支援センターで実施しました。

講座では外国人を取り巻く諸問題や、OIHFに寄せられる相談事例やその対処方法に触れ、外国人を支援するのに、広い知識を日頃から蓄積しなければならないことを確認しました。また、外部講師2名を招聘し、あらた総合法律事務所の山城弁護士による「離婚の基礎知識」や厚生労働省沖縄労働局の南隆功氏による「労働基準法の基礎知識」講座を行い、通訳者として必要な基礎知識の深化を図りました。

参加者からは、「沖縄県の外国人の現状や在留資格、在住外国人支援、離婚、外国人労働などについて、たくさんの学びがあった。外国人である私に、役立つ情報でもあったため、受講して大変良かった。今回の受講をきっかけに、通訳分野を生活・法律相談まで広げ、スキルアップしたいと共に、微力ながら生活に困っている在住外国人の言葉の壁をなくすことの、一助になればと思う。」などの感想をいただきました。

今後、参加者を対象に認定テストを実施の上、合格者をOIHFの「リーガル・ライフサポーター」として認定し、我々の相談対応の際の通訳者として活動することとなります。

講座の様子



Withコロナ時代「新たな多文化共生の地域づくりセミナー」

新型コロナウイルス感染症拡大により「新しい生活様式」の導入や行政から発出される様々な要請等により、我々の生活は一変しました。そのような中、在住外国人は感染症防止に関して正しい情報に辿り着くことができない、行政の複雑な支援策の煩雑な手続き等により必要とする支援を受けられないなど、コロナ禍の中でより厳しい困難を強いられるケースが散見されます。



Withコロナ時代において、誰もが暮らしやすい持続可能な地域を創出する「新たな多文化共生の地域づくり」に必要とされることはどのようなことなのかについて考える機会を持つため、(一財)ダイバーシティ研究所代表理事の田村太郎氏を講師として招聘し、11月18日(水)に本セミナーをZOOMで開催しました。

講座では、「多文化共生の経緯」「コロナがもたらした外国人への影響」「Withコロナ時代の多文化共生の進め方」の3つに絞ってご講演いただきました。また、まとめとなる地域で取り組みたい施策に関して、「外国人が地域で安心してくらすための生活インフラ整備の重要性や、外国人雇用の適正化を図るため関係機関と連携を図り、外国人求職者のマッチングや受け入れ体制を構築する必要がある」と話されました。

参加者からは、「コロナ禍で困難を抱える外国人を支援することは、外国人だけでなく日本人にとっても重要なことだと再認識できた。また、講師のお話から、コロナ禍で職を失った外国人に対し、より深く自治体が介入することが求められている現状を理解し、身の引き締まる思いだ。」や「多文化共生とはそもそも何で、何を目指していて、なぜ必要かが良くわかった。日本における外国人労働者の位置付けの経緯(89年の閣議決定や「例外的」受け入れなど)も初耳で大変参考になった。冒頭のOIHFによる沖縄県内の在住外国人に関するプレゼンにあった通り、賃金水準では不利な沖縄でも、多文化共生の位置付けを明確化し、プレずに対応することで選ばれる地域となることが十分に可能と感じられた。」等の感想が寄せられました。

OIHFでは、本県における未来を見据えた多文化共生社会の実現を目指すため、今後も定期的にこのようなセミナーを開催したいと思います。

沖縄県ユネスコ協会からのお知らせ

【書きそんじハガキ・キャンペーン2021】
2020年12月～2021年2月末日まで

書きそんじハガキを集めています。郵便局が発行しているハガキで、文字の間違えや印刷の失敗、余ってしまったハガキをご寄付ください。この活動は、世界寺子屋運動の一環です。11枚の書きそんじハガキで子供一人がひと月学校に通えます。昨年は、4,885枚集まりました。ありがとうございました。



お問い合わせ：

沖縄県ユネスコ協会098-866-2746
(沖縄県教育庁生涯学習振興課内)

OIHF 日本語教室 参加者募集

OIHFでは、毎週金曜日の19時(初級クラス)と20時(中級クラス)から、ZOOMによる日本語教室を開講しています。

教室では、日本での生活で必要とする基本的な日本語でのコミュニケーションを中心に授業を行っています。

教室の参加は無料です！現在日本語を勉強したい外国人の皆さんを募集しています。日本語と一緒に勉強したい人は、OIHFへ電話するか、メールをして下さい！

お問い合わせ：

OIHF TEL：098-942-9215
E-mail: kokusai2@oihf.or.jp





【OIHFが取り組む在住外国人支援アンケートの結果】

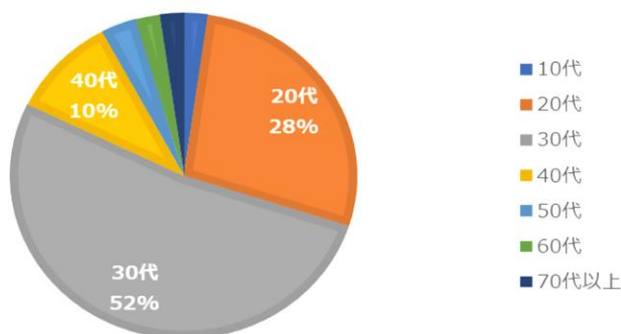


OIHFでは、県から交付された補助金を活用し、新型コロナウイルス感染症禍で生活に影響が出ている外国人を支援するため、「在住外国人生活等支援事業」を実施しており、それに関連して、在住外国人のニーズを調査するためのアンケートを実施しました。

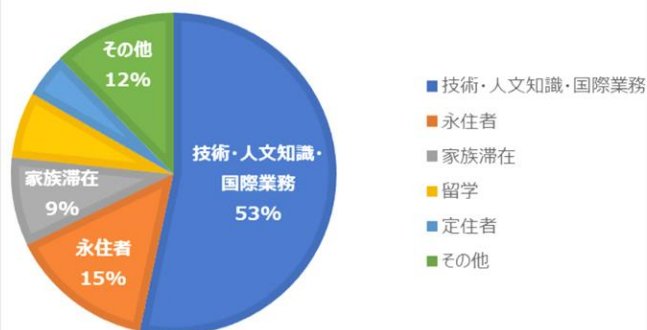
アンケートを通していろいろとわかったことがあります。とりわけ77%が「外国人のために相談窓口が開設されていることを知らなかった」と回答しています。対応する相談の中には、専門家をもたなくても解決に苦慮する問題を抱えているケースもありますが、OIHFが果たす役割として、1件1件丁寧に対応し、結果を出すことで相談機関として外国人に「相談してよかった」と信頼されることが今後ますます重要になってくるでしょう。これが、法律・生活相談を「知らなかった」77%の人たちを「知っていた」に変える広報活動であると考えています。

みなさんの周りに困っている人がいましたら、OIHFが法律・生活相談を無料でやっていることを教えて下さい。OIHFの相談サービスを知らない人へ教えることへの協力をお願いします。

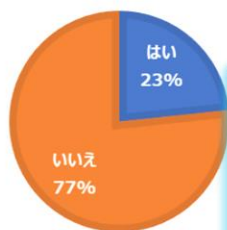
年代



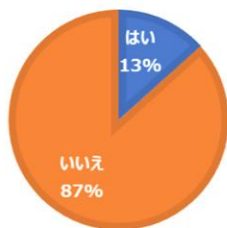
在留資格



OIHFの法律・生活相談について
知っていましたか？



OIHFの法律・生活相談を利用したことが
ありますか？



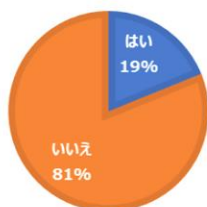
OIHFの法律・生活相談は役に立つと
思いますか？



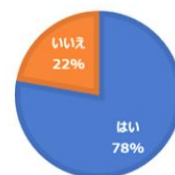
OIHFのCOVID-19のWEB SITEや
FACEBOOKについて知っていましたか？



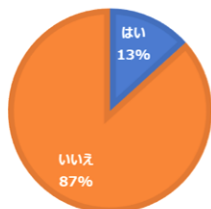
OIHFのCOVID-19のWEB SITEや
FACEBOOKを利用したことがありますか？



OIHFのCOVID-19のWEB SITEや
FACEBOOKは役に立つと思いますか？

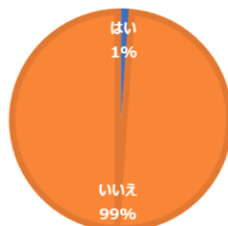


OIHFの医療通訳について知っていましたか？

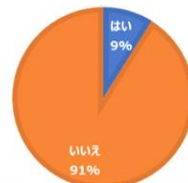


OIHFの医療通訳を利用したことが

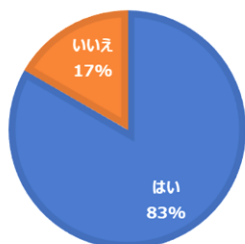
ありますか？



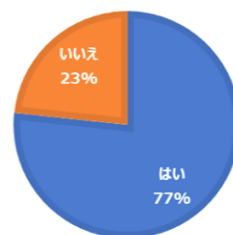
OIHFの助成事業について
知っていましたか？



OIHFの医療通訳は役に立つと思いますか？



OIHFの助成事業は役に立つと思いますか？



アンケートの自由記述欄にお寄せいただいたご意見を一部ご紹介します。

<あなたやまわりの方が、COVID-19で困っていることがあれば教えてください。>

- 解雇に伴い家賃、食事の確保が厳しい。
- 来年2月までの契約ですが、持ちこたえられないのではないかと心配です。その後のビザを更新するための新しい仕事が見つかりません。
- クビによるビザの期限切れ。



<OIHFがどんなお手伝いをしたら、みなさんの役に立つと思いますか。>

- 相談に乗ってくれることです。
- OIHFの活動、サービスについて知らせたほうが良いと思います。一般的な外国人はサービスについて知らない人が多いと思います。そして、沖縄は交通機関が不便ですので、定期的にいろいろな場所で相談窓口を開くと良いと思います。電話やメールでの相談は苦手、やらない人が多いと思います。
- COVID-19に関する規制など。
- 就職紹介サービスや賃貸住宅紹介サービスがあれば、外国人の助けにもなります。
- コロナでクビになった外国人やなりそうな外国人たちが悩みを言いやすい場を作ってほしいです。
- できるだけ、日本のルール、簡単な法律や地域の情報や文化等を多言語でどんどん発信していくことだと思います。また技能実習生への配慮もしてほしいところです。確かにこの人たちには、会社や監理団体があるのですが、いずれも仕事面だけとなってしまいます。しかし、3～5年間の実習期間はより有意義で、やりがいのある生活を送れると、実習生だけでなく、地域にも役に立つと思います。もう一つ提案したいことは、医療機関と協力して、基本的な説明、案内、受診時の申し出用紙などを多言語でおいてくれると、非常に役に立ちます。特に県立病院・健康診断をする医療機関に多言語の用紙をおくと、外国人が安心して受診できると思います。

皆さまからOIHFにご意見をお寄せいただいて・・・

様々なご意見の中には想定していた内容や、「実現には時間がかかるな」と感じるものがありました。我々の課題と捉え、優先順位を決めて一つ一つ解決・実現の道を探っていこうと考えています。コロナ禍に限らず、地域の未来を見据えた「共に生きる」という視点を、今後も変わらず持ち続けたいと考えています。

アンケートに答えていただいたみなさん、意見を書いてくださったみなさんに、あらためてお礼を申し上げます。ご協力ありがとうございました。

医療通訳ボランティアステップアップ講座

9月25日（金）にウェブ会議システム（ZOOM）において、「医療通訳ボランティアステップアップ講座」を開催し、40名が参加しました。外部講師として、医療通訳研究会（MEDINT）代表の村松 紀子氏を招聘し、「医療通訳者としての倫理と自己管理」や「コミュニティ通訳者に必要な資質」等についてご講演いただきました。

講座の中で特に印象的に感じたのが、医療通訳者自身も活動を通して、ストレスを貯めてしまうため、自分自身を見つめ直すことが必要であり、医療通訳を行っていく中で活動を継続して行うためには、「自己覚知（自分自身のことを知ること）」に努め、また時には患者やその家族と必要に応じて距離感を保ち、他人事として客観的に接することが大切だということでした。日々対応している外国人の生活・法律相談窓口の相談員にも関連するいろいろと学びが多い講演でした。



コミュニティ通訳とは
医療通訳はコミュニティ通訳の一部

対象：地域に暮らす外国人
分野：公共サービスを中心に司法、医療、行政（教育）などの分野を扱う専門通訳（≠ビジネス通訳・会議通訳）

- 司法分野 裁判所・警察・検察など
- 医療分野 病院・保健所など
- 行政分野 市役所・入管窓口・労基など
- 教育分野 学校・教育委員会など

（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団
2020年度医療通訳ボランティアステップアップ講座

医療通訳者の活動とは
～一人一人がやるべきこと～

医療通訳研究会（MEDINT）代表
スペイン語通訳・社会福祉士 村松紀子



The Third English and Cross-culture Seminar

10月17日（土）にウェブ会議システム（ZOOM）で今年度3回目となるEnglish and Cross-culture Seminarを実施し、高校生から大学生の13名と沖縄科学技術大学院大学の研究者やスタッフ7名が参加しました。

午前中のセッションでは、主にアメリカ全土で人種差別に反対する街頭での抗議デモが関連して、テニスプレーヤーの大坂なおみ選手がコート上で抗議を表明した行動に関する是非に関して、英語でディスカッションを行いました。「大坂選手のように多様性や主張できる人になりたい」「スポーツの場に政治を持ち込むべきではない」「大坂選手の行動には賛否両論あると思うが、メッセージを受け取る私達が責任ある行動を取る必要がある」との意見がでました。

参加者からは、「学校の授業ではできないようなディベートができ、貴重な機会になりました。OISTインストラクターや他大学のメンバーの考えを聞くことができ、また自分の意見も発信でき、学ぶことが多かった時間でした。私自身、今日のセミナーで刺激をたくさん受けたのでこれをきっかけに英語はもちろんのこと、論理的、批判的、客観的思考力も磨いていきたいと思いました。これから頑張っていきたいです。」や「論理的に考え、発言する力が自分にどれほどあるのかを再確認できました。自分に満足できる点が見つけれられた反面、課題がまだまだ残っていることも判明しました。こういったことは定期的に人と交流することでしか気づくことができないので、今回は貴重な機会をいただきました。ありがとうございました。」などの感想がありました。

次回は12月19日（土）に実施する予定です。ZOOMではなく対面で実施して欲しいとの声も多々寄せられるのですが、次回もZOOMでの実施となります。



OIHF Online Japanese class



OIHFオンライン日本語教室
日本語教師 呉屋 真里奈先生

みなさん、こんにちは。このたび6月からオンラインの日本語クラスを担当させていただいている呉屋真里奈と申します。まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。私は生まれも育ちも沖縄で、現在も沖縄で日本語教師として働いております。日本語教師になりたいと思ったきっかけは、「多国籍の人々に関わることで自分自身の視野が広がり、日本語を教えることで助けを必要とする人の力になれるなんて、こんな素敵な仕事は他にない」と思えたからです。

今回、初めて沖縄県国際交流・人材育成財団（OIHF）さんの依頼を受けて、週に1度クラスを担当しています。クラスを始めたばかりのころは、あまりお互いを知らないため受講者の方々と距離があり、クラス内での発言も少なく、とても静かなクラスでした。しかし、回を重ねるごとに受講者の方々と打ち解けることができ、皆さんが何を求めているか本音で話す機会も増えてきました。

みなさんが求めているものを知ってからは、授業で日常生活に合った会話練習や、質問の仕方などを取り入れました。そうすると、受講者の方から積極的に質問してくれるようになり、クラスで覚えた会話を実際にスーパーで使ったり、「家族と日本語で話せるようになった」という声をいただけたりしました。

受講生の方々が「間違えるかもしれない」という不安に負けず、勇気を出してクラスで覚えたことを実際に使ってくれること、またそれで得られた喜びの声を聞くと、その達成感や喜びが、まるで自分のことのように思えて嬉しさがこみ上げてきます。このように学習者の成長を身近に感じられることも、日本語教師としてのやりがいの1つです。また、受講生の国籍も多様でテーマに沿って意見を言う場を設けると、様々な意見が飛び交います。日本人の私にはない価値観、視点、考え方、文化の違いなどを知り、毎週驚きと楽しさでいっぱいです。

受講者のみなさんへ

初めのころは私の見た目、経験や教え方に戸惑いがあり不安に思わせたこともあったかもしれませんが。毎週金曜日、お仕事や家事・育児の合間に参加していただき、ありがとうございます。回を重ねるごとにみなさんとの距離が縮まり、冗談を言い合える仲になり、母国で流行っていることや住んでいる地域のおすすめ、互いの国の文化を日本語でシェアできることが、今では私の楽しみの1つになっています。

これからも、皆さんの生活の助けになる日本語を教えることができたらいいなと思っています。「こんなとき何と言うの」、「このことについて学びたい」などのリクエストもお待ちしています。来年3月まで、一緒に楽しく学びましょう。これからもよろしく願いいたします。



OIHF主催イベント情報

—多くの皆様のご参加をお待ちしています—

外国人による日本語弁論大会

第38回

弁士募集

Call for Speakers
Japanese Speech Contest for Foreigners



目的

在住外国人に、国際交流・国際親善・相互理解・日本や沖縄の文化について日本語で発表する機会を提供し、異文化理解と共生の精神及び国際社会のあり方をともに考え、相互友好の一助とします。

参加資格

1. 県内在住外国人で母語が日本語以外の方
2. 大会開催当日の年齢が15歳以上の方
3. 過去の本大会で最優秀賞を受賞していない方

テーマ

- 趣旨に沿った内容であれば演題は自由
(伝道や宣伝は不可)
- 他の大会で未発表の作品に限る

お問い合わせ (応募方法は、当財団HPでご確認下さい)

(公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団 (OIHF) 国際交流課

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4丁目2番16号

TEL: 098-942-9215 FAX: 098-942-9220 HP: <https://kokusai.oihf.or.jp>

応募締切

2021年

1月7日(木)

17時必着

本大会

締切後、原稿審査を実施します。

ファイナリストに選ばれた方は、下記日程の本大会に参加することができます。

日時: 2021年2月6日(土) 13:00~

場所: パレット市民劇場

(那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ9F)

観覧希望について、感染症対策の一環として事前申込制を予定しています。詳細が決定次第HPに掲載します。



OIHF HP QR

外国人による日本語弁論大会弁士募集!

今回で38回目となる日本語弁論大会の発表者を募集します。多くの外国人の皆様のご応募をお待ちしています!

- 弁士募集期間: 2020年11月1日(日) ~ 2021年1月7日(木) 17時必着
- 応募方法: OIHFのHP内にあるオンラインフォームからご応募下さい!
- 実施日: 2021年2月6日(土)
- 実施場所: パレット市民劇場 (那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ9F)

■ その他:
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため今回の大会は無観客で実施し、大会の様子を後日YouTubeでストリーミング配信します。大会当日は、関係者以外ご来場いただけませんので、皆様のご協力をお願いいたします。

島嶼県沖縄の地域防災力向上を目指して!

災害危機管理ウェビナー

名古屋大学減災連携研究センター長
あいち・なごや強強化共創センター長

福和伸夫氏講演会



日時 2021年
1月13日(水)
14:00 ~ 16:00

場所 ZOOM

- 対象
- 行政職員
 - 沖縄県地域防災計画関係者
 - 災害時外国人支援サポーター
 - 県内在住で防災・減災に興味を持つ方

福和 伸夫 (ふくわのぶお) 氏の主な社会活動

- 中央防災会議: 日本海溝/千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ
- 地震調査研究推進本部: 政策委員会 (委員長)
- 内閣府: 相模トラフ沿いの巨大地震等による長周期地震動検討会、南海トラフ地震臨時情報に伴う防災対応中継連絡会、病院船の活用に関する検討会 (委員長)
- 文部科学省: 防災科学技術委員会
- 国土交通省: 国土交通省社会資本整備審議会基本政策懇談会
- 最高裁判所建築関係訴訟委員会 他
- 防災功労者内閣総理大臣表彰、文部科学大臣表彰科学技術賞
- 日本建築学会賞・同教育賞・同著作賞・地域安全学会技術賞他

定員 50名程度

- 参加無料/申込みは、HPにて
- 募集期間: 11月16日~12月23日
- 参加は応募先着
- 定員に達し次第締切

主催

公益財団法人
沖縄県国際交流・人材育成財団
担当: 菊 (かつ)・大見 (おみ) 謝 (あき) 野 (の) 田 (の) 浩 (ひろ)
TEL: 098-942-9215
HP: <https://kokusai.oihf.or.jp>



HP QR

災害危機管理ウェビナー講演会!

本ウェビナーでは、中央防災会議等のワーキンググループメンバーである名古屋大学減災連携研究センター長 福和伸夫氏を招聘し、「ホンネとホンキで必ずくる震災を乗り越える(仮題)」をテーマに、巨大地震の動向や防災や減災に向けた今後のまちづくりに寄与する内容をご講演いただきます。参加は先着順で、定員に達し次第募集を締め切ります。

- 募集期間: 11月16日(月)~12月23日(水)
- 応募方法: 財団HP内のオンラインフォームから
- 実施日時: 2021年1月13日(水) 14:00~16:00
- 場所: ZOOM



OIHFでは様々な外国人支援に取り組んでいます！

日本語 日本語 English 英語 台語 台語 繁体中文 繁体中文 简体中文 简体中文 Español スペイン語 韓国語 韓国語 Tiếng Việt ベトナム語

窓口に相談に来た外国人の方へ

■暮らしのこと、家族のこと、仕事の悩み、など

あなたが困っていることは何ですか？

私たちは 沖縄県国際交流・人材育成財団 国際交流課です。
沖縄に 住む 外国人 の みんなの お手伝い を しています。

相談にお金はかかりません（無料）、秘密は守ります

誰に相談したいかわからない
困っていることはあるけど、
目的の言葉や言葉
をわかって、
どうすればいいかわからない

COVID-19
Coronavirus
コロナで困っていませんか？

あなたが困っていることを私たちに伝えてください。
必要の書類をいっしょに書いて、書類を出すところに電話するところまでです。
電話でなければ、どうすればいいかを尋ねて、一緒に解決していきます。

TEL: 098-942-9215 E-mail: kokusai@oihf.or.jp

TEL: 098-942-9215 FAX: 098-942-9215 FB: http://www.facebook.com/oihf60

相談窓口を開設し対応しています！

外国人が地域住民として直面する様々な問題について、日常的に相談できる窓口を開設しています。多言語による生活相談や、沖縄弁護士会との連携により、在住外国人の生活面や在留資格、労働面等を専門的に支援するための法律相談会を必要に応じて実施しています。

COVID-19に伴う雇い止めや在留期限の延長に関する事など、多様な相談が寄せられ、対応しています。守秘義務は厳守します。些細なことでも結構ですので、困ったことがありましたら、お気軽にご相談下さい。対面や電話、メールはもちろん、FBのメッセージでも受け付けています！

E-mail: kokusai@oihf.or.jp

FB: <https://www.facebook.com/oihf60>



COVID-19多言語情報ポータルを開設

COVID-19に関する情報や生活お役立ち情報等を9言語で随時発信し、在住外国人の支援を行っています。日本語で発信される情報の中で、とりわけ重要と思われるものを多言語化することで、地域住民間の情報格差をできるだけなくしCOVID-19禍における多文化共生を推進しているところです。ぜひ、「COVID-19多言語情報ポータル」をご活用下さい。

COVID-19 多言語情報ポータル

ホーム 公益財団法人 沖縄県国際交流協会 OKINAWA INTERNATIONAL ASSOCIATION



COVID-19 多言語情報ポータルは、沖縄県に住む在住外国人に向けて新型コロナウイルスの情報を多言語で発信しています。

<https://kokusai.oihf.or.jp/covid-19/>

COVID-19で困っている外国人をサポートしている団体に助成金を出します。

だれが応募できますか？
沖縄県にある団体などです。

いくら助成金がもらえますか？
最大で10万円です。

いつまでですか？
2021年2月28日までです。

Q1 内容は、料理料を軽減しています。お弁当を作って、困っている外国人に無料で配りたいです。助成金の対象ですか？

A1 配ったお弁当の材料費と容器代は対象です。料理店の領収書はご用意ください。

Q2 困っている外国人に無料でお米やレトルト食品などを配りたいです。助成金の対象ですか？

A2 購入して配った食料品は対象です。寄付で集めた食料品は対象外です。

Q3 高齢者支援として外国人も無料と日本語を教えるたいです。助成金の対象ですか？

A3 公民館の賃借料や教材代などは対象です。講師料などの報酬は対象外です。

Q4 わたしたちの国際交流協会では、再就職を助けて就職活動をしている外国人の子どもの面倒を見ています。助成金の対象ですか？

A4 預かっての子どものお食事代などは対象です。

ほかにも「こんな取組みは対象ですか？」と質問してください。

(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団
TEL: 098-942-9215
Email: kokusai@oihf.or.jp

COVID-19禍の中外国人支援を行う団体に助成しています

OIHFでは、新型コロナウイルス感染症の影響により日常生活に支障をきたしている外国人を支援し、国際交流を推進する県内の国際交流団体や民間団体などを対象に助成金を交付しています。

例えば、在住外国人に対する食料品や日用品の配布や、学習・再就労支援に資する取り組み、地域の外国人コミュニティの活性化を推進する取り組みなどが対象です。

助成金の交付上限額は1件につき10万円です。2021年2月まで申請を受け付けています。

国際理解・国際協力のための中学生全国作文コンテスト

優秀賞【安達峰一郎記念財団賞】

那覇市立安岡中学校1年生 與那嶺 源太 さん

10月に実施された日本国連協会および外務省主催の「2020年度（第60回）国際理解・国際協力のための全国作文コンテスト」で、1,200名以上の応募者の中から、沖縄県代表の那覇市立安岡中学校1年生の與那嶺源太さんが優秀賞（安達峰一郎記念財団賞）を受賞しました！與那嶺さんは、9月に実施されたOIHf主催の沖縄県予選で最優秀賞を受賞していました。

與那嶺さんは、全国大会での受賞の感想を「沖縄県で最優秀賞を受賞したときもそうでしたが、驚いていて、まだ実感が湧いてきていません。でも、とても嬉しいです。」とコメントしていました。



受賞おめでとうございます！

【賛助会員の募集・寄付のお願い】

（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団（略称「OIHf」）は、本県の未来を見据えた多文化共生社会の実現をを目指し、ダイバーシティを尊重する地域づくりと人材育成を推進しております。

一方、基本財産運用利率の低迷や県補助金の減額、委託金の廃止などOIHfの運営は大変厳しい状況にあり、今後安定した事業を展開するためには、皆様の支援が必要となります。新型コロナウイルス禍の中、誠に恐縮ではございますが、賛助会員へのご加入やご寄付など皆様のご協力をお願いいたします。

【年会費】 個人：3,000円 団体：10,000円

★お申し込み・お問い合わせは国際交流課まで★ TEL:098-942-9215 Email: kokusai@oihf.or.jp



その他法人賛助会員様： 沖縄ハワイ協会 沖縄ツーリスト 沖縄県商工会連合会
パシフィックホテル沖縄 沖縄市国際交流協会